

合併住民説明会

日時 平成 17 年 2 月 26 日（土）

13 時 30 分から

場所 富山国際会議場 3 階メインホール

司 会（橋本次長）

ご案内しておりました時間になりましたので、ただ今より、「合併住民説明会～新市のすがた～」を開催させていただきます。本日、司会をさせていただきます、合併協議会事務局の橋本です。よろしくお願いします。それでは、開催にあたりまして、富山地域合併協議会会長 森雅志富山市長からご挨拶を申し上げます。

■開会あいさつ

富山地域合併協議会会長 森雅志（富山市長）

皆さんこんにちは。大変たくさんの方にお集まりをいただきました。まず、冒頭お礼を申し上げます。今朝起きましたら、いささか驚きまして、もう雪は終わったかなあと感じておりましたが、私の自宅の周りも一面真っ白になっておりました。お話を伺いますと、それぞれの地域で大変多く降ったところもあるようでございますが、そういう意味では、大変足元も悪い日になってしまいましたが、曲げてご出席いただいたわけございまして、本当にありがとうございます。

今年の雪は、1 月 29 日から少しありましたが、月の初めにもありましたが、どうも朝 5 時ごろから降る雪が多く、通勤時間と重なり、除雪ができなくなるということで、住民の方々にも色々ご不便をおかけしたと思います。お陰様で、そろそろ暖かい日も多くなってまいりました。「春近しだなあ」こんなことも感じております。

昨日、ある方から、ふきのとうがでてきたぞという話も聞きました。もうまもなく、穏やかな春がやってくると思っております。そして、この春、4 月 1 日を迎えますと、いよいよ、新「富山市」が誕生するわけでございます。この合併協議につきましては、足掛け 3 年になります。大変長い間、時間をかけまして、富山地域全体の将来へ向けての合併協議というものを、大変多くの方に、精力的かつ熱心に取り組んでいただいたお陰様で、4 月 1 日をまもなく迎える運びとなったわけでございます。

合併協議会といたしましては、この間、住民の方々に対しまして、協議によっていろいろな事項が決まっていく都度、協議会だよりを発行させていただき、また、メール等でのお問い合わせにきちんとお答えをいたしました。さらには、機会をとらえての住民説明会の開催、年末から今年 1 月にかけてのケーブルテレビにおける 3 回シリーズの広報番組の放映等を通じ、合併協議の中身についての広報活動をさせて頂きました。そういう意味では、大変幅広い住民の方々に、一定のご理解を頂いているのではないかと、このように思っております。

いずれにしても、この 7 市町村による合併は、新市誕生後には、海拔 0 メートルから 3 千 m に達しようとする山脈まで、そして面積も 1,242k m² という大変大きな都市となります。人口の面でも、面積の面でも、富山県の 3 分の 1 を占める大きな都市になるわけでございます。それだけに、新市のまちづくりがどのように進んでいくのかということについては、住民の皆さん方の強い期待と関心が寄せられております。こうしたことを踏まえて、本日の合併住民説明会を開催させていただいたわけでございます。本日の住民説明会は、市町村建設計画策定委員長をお務めいただきました、早稲田大学の宮口先生の基調講演を聴いていただきいただきまして、その後、私ども構成 7 市町村長がパネラーとなって、一人一人の思いや意見を述べあうというふうに進めさせていただく予定にしております。

新市誕生まで、今日を含めてあと 34 日という日程でございます。現在も、協議会の分科会や専門部会では、鋭意協議しているわけでございます。もう少しつめていかなければならない事務事業の詳細な調整があるわけですが、おおむね順調にすすんできていると、ご報告したいと思っております。

また、窓口業務につきます職員を中心に、職員研修を毎日のように実施いたしております。なんとか、新市へのスムーズな移行が出来るよう、あと 34 日間しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

そして、いろんな場で申し上げておりますが、4 月 1 日が、この合併という作業、営みのゴールではなく、まさに 4 月 1 日から始まる、大変重要な取り組みを、毎日、職員が真剣にしっかりと取り組んでいくということ、このことこそ私どもが目指していかなければならない大事な姿勢だろうと思って

おります。

そして、多少の時間は当然かかると思いますが、1日も早く、新市の市民の皆さん、皆さんが、一体感をしっかり持っていただけるような形に仕上げていくことこそ、大変大切だと思っております。

本日もご出席をいただきました皆様方には、ぜひとも、ただいま申し上げたことなどもしっかりご理解いただき、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。冒頭のご挨拶とさせていただきます次第でございます。本日は、ひとつよろしく願いいたします。たくさんの方にお集まりいただきまして、改めてお礼申し上げます。

司 会

ありがとうございました。それでは、基調講演に移らせていただきます。

講演に先立ちまして、本日の講師、早稲田大学教育学部教授 宮口侗廸先生をご紹介させていただきます。宮口先生は、東京大学理学部地理学科をご卒業後、同大学院博士課程で学ばれた後、昭和50年、早稲田大学教育学部に勤務、昭和60年から現職にお就きになり、地理学や地域社会論を中心に、教鞭を執っております。

また、国土審議会専門委員として、今次の全総計画「21世紀の国土のグランドデザイン」策定に携われるかたわら、自然環境に対する人間集団の風土的理解が、どのように地域社会の発展とかわるのかを考え、転機にある日本の農山村の方向を見定める「多自然居住」の概念を提唱されております。

このほか、総務省過疎問題懇談会委員、国土交通省地域振興アドバイザー、全国地域リーダー養成塾主任講師、農村コミュニティコンクール審査委員を務められるなど、地域振興や活性化にも熱心に取り組まれており、地域づくり、まちづくりの先導役として、全国各地でご活躍なさっております。

ご承知の方も多いことと存じますが、宮口先生は、細入村のご出身でありまして、そのご縁から、平成15年4月の協議会発足当時から、富山地域の合併協議にもご協力をいただいております。特に、専門的な立場から、市町村建設計画策定委員会委員長として、合併後の新市のまちづくりの基本構想とも言えるべき、新市建設計画の取りまとめにご尽力を賜ったところでございます。

本日は、「新富山市の過去・現在・未来～新しい時代のはじまり～」と題してご講演をいただきます。それでは、宮口先生、よろしくお願いいたします。

■基調講演

演題 「新富山市の過去・現在・未来～新しい時代のはじまり～」

講師 宮口 侗廸 氏（早稲田大学教育学部教授）

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました、早稲田大学の宮口でございます。ご紹介いただきましたとおり、私は細入村の猪谷というところの出身でございます。山の中の谷川で、鮎を獲って育った、山のガキ大将だと思っていたら結構です。私は、高校になって富山市に通うようになりました。当時はまだ高山線がSLで、トンネルに入るときは、慌てて窓を閉めなければ煙が入ってきて大変というなかなか時代でございました。富山市で高校時代を過ごした後、東京の大学へ行ったわけですが、この細入村と富山市と東京という、3つの場所を良く知るような巡り合わせで育ったことが、多分私が地理学という、古くからある怪しい学問ですけれども、そういうことをやるようになった大きな理由だと思っております。

地理学ってなんだ、と言われれば、一言で言えば、世の中いろいろあるよね、ということでございます。東京のような、化け物のような大都市もあれば、山の中の小さい村もある。あるいは、世界には砂漠があったり、密林があったりするわけですが、人間がその自然の上に、さらにいろんな違いを上乗せしてきたわけです。その中には、都市もあれば、いまだ農村的な地域もある。「それぞれの地域に価値がある。」というのが、私の基本的な考え方でありまして。多くの地域と付き合っておりますけれども、都市には都市の価値がある、山村には山村の価値がある。ただ、それをちゃんと活かして、良い価値をつくられているかというのが、現代の人たちの、責任であり問題であるわけです。うまくいっていないところもございまして。うまくいっているところもございまして。うまくいっていないところは、単に、客観的に不利なだけでうまくいっていないのか。ひょっとしたら、その人たちの工夫がもう少しあってもいいのではないかというようなことを、色々考えているわけでございます。

私、一昨日の夜は東京の六本木で、地方から集まった自治体の職員何人かとお酒を飲んで語ってございました。昨日の夜は、山口県の長門市というところへ行っておりました。そこで夜11時位まで、地

域づくりの会議、これは国からの派遣アドバイザーとして行っていたんですけれども、そういう会議をやっております、今日は飛行機がちょっとやばそうだということで、7時の山陽新幹線に乗りまして、サンダーバードで無事間に合うことができました。今日はむしろ琵琶湖の西辺りが吹雪でして、電車が遅れましたが、無事着いて良かったと思っております。

そんな生活をしておりますので、今日電車の中で色々計算をしてみましたら、1年間に地球を二回りくらいしているようです。そうやって、いろんな多くの地域と付き合っておりますと、やっぱりここにはこんな価値があるんだ、この町はこういういいものを持っているんだ、というようなことがよく見えてくるわけでございます。それぞれの価値がうまく伸びてればいいなあということで、多少のアドバイスをさせていただいたりしております。

皆さん、自分の住んでいる地域はどんなところですか。「俺は、自分とこのことはよう分かっとなるわい。」と、おっしゃる方が多いかもしれませんが、あなたの地域にどんな特長がありますかと、言われて答えるためには、広い世間を知らなければいけないのであります。こういうところに、こんなものがあるということを知っていても、それが日本中に転がっているものか、あるいは、自分の地域にだけあるものなのかということが知ることが大事なんですね。特長というのは、自分のところが誇れるものでなければならぬ。世間のどこにでも転がっているもので威張っていても、仕様が無い訳であります。そういう訳で、人間はやはり他の地域を知り、その中で自分の地域を考えるという感覚が大事だと思っております。今、全国で合併の嵐が吹き荒れておりますけれども、これは日本が転換の時代にあって、新しい地域社会の仕組みを再スタートさせることによって、より実りある地域というものをつくっていくということです。

今、非常に難しい時代です。世界にいろんなお金持ちがおります。どこかのお金持ちが、どこかの会社の株を大量に買ったり売ったりすれば、大変世の中が困ります。このような、大変グローバルな時代です。今、ライブドアとフジテレビの問題がありますので、皆さん良くお分かりと思いますけれども、こういう時代こそ自分の足元から出発する。自分の足元を見ながら、俺たちは何をしていけばいいのか考えることが一番大事であり、一番強いんですね。

東京の人は、大げさに言えば、土地も、家も、食べ物もない。最近はやうやくマイホームというのが行き渡るようになりましたけれども、そういう存在であります。地方の人は、私に言わせれば、家と地面と建物があります。そういう強い空間にいるということから出発して、改めて自分たちの地域を考えていただきたいと思います。

今日はそんなに時間がございませんので、急いでお話を申し上げますけれども、まず最初に、皆さんが住んでおられる富山というところは、どんなところなのかということを、少し復習していただきたいと思います。大げさに言えば、私はそうやって全国をうろうろ歩いておりますので、富山というところがどんなところかということが一番良く知っている人間だろうと思っております。ご紹介にはありませんでしたが、私は富山市民でして、毎週月曜日の朝富山を出て東京へ出稼ぎに行っている人間でございます。わずかのお金を、富山へ運んできているつもりでおります。

富山ってどんなところでしょうか。私、猪谷からよく高山線に乗りましたけれども、笹津駅へ来ますと、日本カーボンという大きな工場の煙突がありました。あるいは、敷島紡績という工場がありました。速星駅へ来ますと、日産化学という馬鹿でかい工場が今もあります。西富山には、今は住宅団地になっておりますが、当時、製鉄所がありました。要するに、富山ほど、駅前ごとに大工場があった田舎は無いのであります。富山の人は、全国どこへ行ってもそんなものだと思っている方が多いんですが、こんなところは無いのです。北陸線にも、駅前ごとに、大工場がありました。魚津に行くと日本カーバイドがあります。泊の方へ行ってもありますね。要するに、駅前ごとに大工場が早くからあった。これは何故かといいますと、電気を安く提供したからであります。思い切ったことをやった。その電気を生み出したものは水力ですが、富山県で初めての発電所は、大沢野町の塩というところになりました。これは大久保用水という農業用水が、崖を下りる落差を利用したものです。これに目をつけたのが、密田孝吉という青年です。その時にお金を出して、一緒に発電所を造ったのは、金岡又左衛門という人でした。いわば、薬問屋さんです。ということは、富山というところは、昔、売薬をやって、それで貯めたお金で電気を起こし、その電気で大企業の大工場を、思い切り電気代を値下げして呼んだ。こういうことが、実は、現在の富山県をつくってきた。その結果、駅前ごとに工場が林立するような状況が生まれた。速星に日産化学が来た時には、近所の人は三交代で夜勤を勤めれば、徹夜明けに田んぼに出られると考えました。日本最初の兼業農村地帯が、あの辺に生まれたのではないかと、大げさにいえばそう言えると思います。そういうことで、最近まで、富山県の人は勤め先に

あまり苦勞しないでこられた。その辺で必ず雇ってもらえるという雰囲気、ずっとあったということです。

私が高校に通ったのは、昭和 30 年代の後半ですが、当時、朝 6 時半に高山線に猪谷から乗りまして八尾駅に来ますと、ホームに人があふれておりました。大体、高山線というのは、八尾を通るためにものすごく曲がって、迂回しているんです。真っ直ぐ現在の国道 41 号のラインを通れば、非常に短いのですが。八尾というところは、商業で栄えて、たくさんの人が住んでいた。ただ、商業で栄えた八尾の人も、多分、次男、三男の人たちが、富山市へ早くから通勤をしていた。だから、八尾駅のホームはいつも人であふれていた訳です。そういう光景を、今もありありと覚えております。

そういうわけで、富山というところは、田舎の中では非常に早くからサラリーマン化したところですよ。そういう意味では、ある種の経済合理主義といいますか、そういうことにかかなり素直であり、もっと言えば、物分かりのいい人たちの世界であります。あまり、困った頑固者がいないというふうに、私は感じております。

このように、早くから鉄道などを利用して、周りから多くの人が、この富山市へ通勤して集まって来ていた訳であります。大山町には、富山地鉄の電車がございました。そういうわけで、私はこの富山地域の合併の話聞いた時に、これは素直でいい合併ができるのではなからうかと第一感思いました。大正の終わり、昭和の初めから、この富山市を中心に人の流れというものが形成されていた。私の細入は県境で、県境まで合併するというと大げさに聞こえますけれども、神通川はその上流まだ飛騨というところがございます、たまたま、県のでき方で細入が県境になっているだけで、普通は上流まで 1 つの県なんです。上流には、飛騨という大きな地域があると理解しておいていいんだろーと思います。

私、東京でいろんな付き合いがありまして、この合併問題にもいろんな研究会にかかわってまいりました。国が上から強制的に、人口何十万人位という線を決めて、全国一律的に合併をするのは無理があるという立場で色々議論をしてきました。しかし、県庁所在地を中心とした古くから人が行き来するような広がり、これは生活圏という言葉で言うておいていいと思いますが、そういう合併はそんなに無理はない。この新しい時代の再出発にふさわしい仕組みを作ることができるかもしれないということで、この富山地域の合併に関わらせていただいていたところですよ。

合併で、地域の個性がなくなるのは困るじゃないか、と言う意見がほうぼうで聞かれます。例えば、八尾町には風の盆という素晴らしいお祭りがある。富山市の一部となると、そういうことがぼやけるのではないかと。しかし、それはその地域の人たちの、これからの仕組みの持って行き方の問題であります。今言ったように、この富山地域 7 市町村というのは、相当早くから一体化した生活圏であります。現実、富山市へ通う人がたくさんいます。一番不便そうな山田村でも、2 割近くの人が富山市へ通勤をしていらっしゃる。私の育った細入村では 3 割、大山町は 4 割という数字も、ちゃんと協議会の初期に調べていただきました。ですから、そういった一体化した生活圏の中で、しかし、その上に我々の地域にはこういうものがあるよ、これは他には無い素晴らしいものだということを、ちゃんと守り、そして育て、さらに磨きをかけるということです。もともと八尾町のおわらは、行政におんぶして出来てきた訳ではありません。八尾町自体もかつて広域合併をし、いろんな経緯の中にいる訳です。そういうものはそういうものとして、改めてその地域の人たちが今までの町村とは別の仕組みといいますか、照準を合わせて、磨き、育てることが、これからは大事になってくるということをお願いしておきたいと思っております。

続いて、今の日本は、大体どういうふうになっているかということをお願いしたいと思います。私は、日本を 3 つに分けて考えることにしております。これは、私が先程申し上げた育ち方をしてきたことにも由来している訳です。日本には、東京のような大都市がございます。ここでは巨大な数の人たちが集まり、そして、巨大な数の人たちが公共交通で毎日移動しております。ざっと、東京大都市圏は、今、3 千 200 万〜300 万という人口ですけれども、そういう巨大な数の人たちが、朝、何時に家を出れば、何時に会社に着くという、これは世界に冠たる、多分日本にしかない細かいシステムがそこに作られてきている。9 時から会社が始まるのに、7 時 20 分位に家を出ればちゃんと間に合う。これは、日本人がいかに物分かりが良いかということの結果であります。東京へ出張された時に、郊外には朝から行かれないとは思いますが、中央線のホームなんか、みんな整列乗車しております。電車で通勤するのに、3 列 4 列にきちんと、40、50 歳の立派なサラリーマンの人達が、一流会社の部長も課長もその中にはいる筈なんです。きちんと整列して、電車が来たら神業のように乗り降りする。15 秒位で乗り降りするから、2 分おきに電車が走られるんですね。これは、東京の人だけな

んです。要するに、東京のような大都市の仕組みは、そういうことをベースにして維持されているわけなんです。そういうことに合わせて毎日暮らしている人って、やはり大変なんです。でも、出来ちゃっているんですね。不埒者がいて列を乱したりしますと、電車は必ず遅れるわけです。遅れたら結局自分のためにならないから、皆さん物分かり良く並ぶ。そういう意味では、日本では東京だけが、ちょっと別の価値観が育っているといえるかもしれない。大阪に行くと、だいぶんルーズになります。割り込みしても、なんとかごまかしがきくんです。これは、大阪人の性分もありますが、やはり数の問題です。3千万人が生きていくためのルールが、暗黙の上で出来てきているのが超大都市である。東京へ行かれたら、そういうことをぜひ見ていただきたい。この人は、俺たちとは違うんだ。そういうことを見るのが旅なんです。ぜひ、そういうセンスをお持ちいただきたい。

大都市になると、地上だけでは交通が捌ききれませんから、地下鉄が必要になってまいります。そういう訳で、地下鉄ができればちょっと大都市と言っていけなあとと思います。今は、福岡、仙台、札幌にまで地下鉄がございます。ただ、仙台、福岡位になりますと、一方でマイカーの比率もまあまああるということで、中間という理解もできるかも知れません。

そういう大都市というところに比べて、県庁所在地クラスの都市というものがございます。富山市や金沢市を思い浮かべてみていただければ言い訳ですが、ここでは生活の多くが、マイカーというものの上に成り立っております。そうなりますと、富山市の真ん中に住んでいる人の毎日の動きと、婦中町の住宅団地に住んでいる人の毎日の動きというのは、そんなに変わらないものになっていきます。農村的な匂いのする住宅から会社へ行く人も、富山市の真ん中に近いところから会社へ行く人も大差ない生活です。同じようなショッピングセンターに行っていたりするわけです。ですから、私は県庁所在地クラスの都市と、それにくっついているような町村はかなり一体化して、同じようなタイプの暮らし方がそこに存在すると整理をしております。

富山県は、数年前にマイカーの保有率が日本一になりました。これが20年前なら大威張りで良かったんですけども、今は、そんなにみんなが車に乗って、地球環境は大丈夫かということが議論される時代になりました。京都議定書という、先進国がCO2の排出を減らさなければいけないという国際的なルールも発効した時代です。というわけで、ひょっとするとこれは行き過ぎかもしれないと、理解していただかなければいけませんけれども、ただ基本的にはマイカーを中心に非常に便利な暮らしというものがあります。

また、県庁所在地は、経済成長時代にいろんな仕事が増えました。例えば高知県行きますと、人口の43%が高知市に集まっています。オーバーに言いますと、県庁所在地以外はみんな過疎です。県庁所在地の独り勝ちです。これは、日本の制度にも関係があるわけです。全国どこへ行っても、県庁所在地とその周りというのは、マイカーを中心にそんなに職場にも困らないという状況があります。県庁所在地から遠く離れた県境に近いような村々からはどんどん人が流出して、県庁在り地とその周辺に集まってきています。その中でも、この富山市を中心とした地区は職場にそうとう恵まれております。大企業の工場で、撤退して中国へ行ったりしまして、少し跡地利用の問題もそろそろ現れてきましたけれども、ただ富山というところは、高校卒業生の県内就職率がずっと高かった県なんです。数年前までは、愛知、大阪、東京の次が富山でした。これはぜひ覚えておいてください。変な日本一よりは、この方が価値があります。要するに、大都市というのは職場があるところです。高卒の人の手頃な職場が、大都市並みにあったところなんです。これこそ、かつて先人が頑張って大企業の工場を呼んだ延長上にあるわけです。もう一つ言うのを忘れていましたが、工場団地、工業団地、行政が土地を造成して企業を誘致するやり方も富山で始まったんです。ですから、かつての富山というところは、水力発電に始まる工業化、工業団地の造成というように、全国の先端を走ってきた地域なんです。ですから働く場所に困らない。ただ、働く場所に困らないと、人生どうやって生きていこうかという時に、あまり頑張らないで済んでしまう面があります。周り合わせておけばいい。周りの人と同じように、あまり無理をしないでやっていけばいい。しかも、親は大きな家を持っていて、そこから仕事に通うのに大してお金はかからない。先人達が作った偉大な仕組みが、下手をすると今の人が、あまり苦労しないでやっていけるということにつながるかも知れない。そうならないことを願っておりますし、昔のように景気のいい状態が続くわけではありませんので、一人一人が考えていかなければならないと思います。富山市を中心に、比較的気楽に暮らせる地域がある。全国どこへ行ってもそんな感じがございます。

大都市、県庁所在地とその周りときまして、もう一つ、県庁所在地から遠くて、そこになかなか通勤も難しい地域が全国にたくさんあります。そう言いますと語弊がありますが、富山県にはあまりご

ざいませぬ。細入村、山田村がちょっと微妙な位置にありますか。あるいは、大山町も上流の方に行きますと、少し微妙かも知れませぬ。しかし、現実的には、通勤に1時間以上はなかなかかからないという事で済んでいます。しかし、上流の飛騨へ行きますとそう簡単ではありません。飛騨の人が岐阜市に行くなんていうと、大変なことになるわけです。高山はそれなりに小さい割にはいろんな産業を興して頑張っている市でございますが、しかし、大きさという点においては小さいわけです。そういう地域が全国にはたくさんございます。そういう地域のほとんどが、過疎化という状況があります。

ただ、こういうまあまあな都市と距離があり、簡単には行き来ができないという不便なところで人口が減りました。イコール、それを悲惨な事と考えるのは間違っているというのが、私の年来の持論でございます。それだけ山の中から人が減ったということは、都市に近いところで多くの人が飯を食っていけるようになったということでもあります。要するに、これは日本全体の経済成長、あるいは暮らしの水準の上昇、みんなが車を持ったり、便利な道具を持ったり、あるいは、昔ほど夜中まで汗水たらして働かなくても良くなったということの裏返しであります。

今から何十年も前、例えば戦前の時代に、富山で育った次男や三男が東京へ行くといったら大変なことだったんです。何の当ても無かった。知り合いの知り合いぐらいを頼って行った。どんなところか分からない。聞くと見るでは大違い。ただ帰るところがありませんから、やみくもに働いた。そうやって何とか都市生活者になっていった訳ですけども、実は日本経済の成長は、都市の職場を飛躍的に増やしまして、まあまあな都市へ行けば仕事にありつけるという時代になりました。そうしたところ、農山村から本来なら村に残るはずの長男までが、簡単に都市に住み着けるものですから、昔は住み着くのも大変だったんですが、戻ってこなくなった。その結果が過疎という状況であります。

農業や林業は、簡単には能率化できません。都市の生産というのは、どんどん能率化されていきます。したがって、山に残った人が昔の農業や林業をやっていたら、稼ぎは、金額そのものは減らなくても、世間はどんどん上がるわけですから結果的にはどんどん低下する。実は、いわばこの経済成長の時代に、都市から遠いところで、そこに相応しい新しいやり方がなかなか生まれなかったわけです。今までのような農林業をだだらやり、それでは食えないので、政府は過疎対策として道路工事やなんかをたくさん行って、結果的には汗水たらして働けば、お金は結構入ったんです。ですけどもそのお金はどこに行ったのかといいますと、子供や孫が東京の大学へ行って、年間何百万もかかるとか、東京に行って就職したって、最初から万全の体制で生活できるかといいますと、なかなかそういうわけにはいきませぬ。米を送ってもらっただけではなく、時にはお金も動いていったということが現実であつたわけです。私は東京の人に、あなた方そう威張るな。都市は都市だけで生きてきたような顔をしているけれども、田舎の人がお金を背負ってやって来ているんだぞと。残念ながら、こういう統計は無いので実態は分からないのですが、そういうふうに観ています。

大事な事は、人が少ないところは、少ない人間でうまくやっていくやり方をみつけるということあります。これが一番大事な過疎対策であります。今回、富山市には、過疎と言われてきた村も加わる訳です。ぜひ、その辺りのセンスをご理解いただきたいと思います。人口30万、40万人の都市の栄え方と、山の中の小さい村の栄え方がそもそも同じ訳はないのです。同じ訳は無いのに、みんな同じように考えてきた。建物を建ててもらおうと、うまくいくとかですね。問題は使い方であります。土地であつたり、いろんな資源があつたり。

昔から山の中に栄えている温泉旅館がありますね。それは経営がうまいから栄えているのであつて、駄目な人がやればすぐ潰れるんですね。ですから資源を活かすのは人の力であります。そこに住んでいる人は、その資源を活かすような勉強をしてもらわなければいけない。その時代の変わり目、日本の経済がどんどん成長して生活水準が上がるときに、そういうセンスの勉強がちょっと足りなかったという意味がどうも過疎地域にあつたのではないか。そういう意味では、国のお金の使い方もハード中心で、人の力を育てるところにあまり向かわなかったというところがあつたかなと思います。

私は田舎の発展というのは人口が増えたりすることではなく、そこにある資源の使われ方が進歩、発展することだと言い出して、そういう地域のことを「多自然居住地域」と国に位置づけてもらったわけです。ただし、都市の成長にぶら下がる事に比べると難しいです。だから国として、それをどう支援するかという仕組みは大事です。これは、新しい富山市にもぜひお考えいただきたい。なにも、のべつ幕無くお金を使うということではありません。そこにあつた人の力をどう育てるかということの大事さという事を、お考えいただきたいと思います。

開き直った所からは、結構おもしろい結果が出ております。例えば、福島県の昭和村という山又山

の奥、これは富山の人には考えられないような山の奥です。雪も今3m位あります。そこでは米を作っているも仕様が無いということで、そうとう勉強した結果、霞草というものに行き当たりました。一つの谷、ほとんど霞草を作っていて、売り上げは5億円です。農産物で5億円売り上げるということは、どんなにすごい事か。ひたすら周りと同じように、しかも条件が悪いところで田んぼをやってきた所です。もうこんな事やっても仕様が無い。山奥でどう頑張るか。平地と同じ事をやっても仕様が無い。いろんな例があります。高知県の馬路村では、ゆずの加工品を30億円売っています。みんなが歳を取ってゆずの世話ができなくなった。そういうことは、裏返せば無農薬、有機栽培だと誰かが考えて、それでおいしいポン酢を作って全国売り歩いているうちにヒットした。

今日は産業の問題を議論する場でもありませんが、その場に相応しいやり方というのは、経済がどんどん成長して、みんなが同じ事を考えた時代には生まれなかったのです。だからこそ、今こそ足元から出発するチャンスだと理解をしておいて下さい。

私は日本人というのは、周りと一緒にやっていたら無難なのだとということで、これだけ幸せになれた世界の中でも珍しい民族だと思います。普通は、人のやらない事をやらなければ、お金持ちにはなれない。世界の奇跡なんです。ただ、そういう時代は終わったという事です。これから一人一人の違い、こういう事は誰が出来そうか、これは地域社会でいろんな仕組みを作っていく時でも、みんなが同じように出来るわけではないという事です。日本人はよく、「不慣れでございますので、よろしくお願いします。」とか挨拶します。不慣れというのは言い訳なんです。本当は、俺出来ないかもしれないけれど、もし失敗したらそれは慣れていなかったせいだ。出来る、出来ないをはっきりさせずに今までやってきたわけです。出来る人は慣れていなくても出来るのです。出来る人に出来る事をやってもらうという事が大事です。特に田舎の方は、そういう事が大事だと思っております。

今回、合併の中で、画一的な合併論はいけないという事を言うておりましたら、合併の際に、地域自治組織というものを作れるという事が、新たに地方自治法に規定されました。例えば私の育った細入村は、細入地域自治区というものを合併後に作って、地域の中の事を、そこで少しは考えられるようにしようということも決まったわけです。

合併して大きくなれば、住民と役所の距離は遠くなります。今まで家の前に役場があったのに、遠くまで行かなければならなくなる。この程度で文句を言ってもらっては仕様が無いんですが、確かに全体が大きくなれば、例えば、市長と住民の距離は遠くなるかもしれない。しかし、それは、やり方次第であります。どんな仕組みを作るべきか、市長と住民がいつも対話できるような、これは仕組みの問題であります。いままですんな簡単に良い例が一杯あるわけではありません。ですからここで、新富山市としてオリジナルに考えていただきたい。海から3km近い山までである。これはある意味では人と財産を新しく抱え込んだという事であります。山には山の使い方がある。海には海の使い方がある。中心市街地はどうあるべきかというようなことは、一杯あるわけです。例えば、東京の何々区というところでは、人口40万、50万人の中で新しいまちづくりの仕組み、自治の仕組みというようなものが育っております。だけど富山市の場合、それをそのまま真似をすればいいというものではないと思います。山から海まで抱え込んだ40万人都市としての、新しいオリジナルの仕組みというものを、少しは時間が掛かるかと思いますが、考え出していただきたいと思います。世間に「富山方式」なんていう言葉が生まれ、語られるような時代が来たらうれしく思います。

住民の方も役場が無くなったとか、市役所まで遠くなったというようなことで被害者意識を持つような、そんな事で損した、得したとっている時代ではないと思います。この時代に新しい付き合いを作り、新しい暮らし方というもので、自分の人生を充実させていく。我々よりちょっと下の団塊の世代というのが、リタイアする時代を迎えております。いろんな所にいろんな人のパワーがある。それを、どうやってうまく仕組みに乗せて行くかという事であります。今まで村でやってきた車座になって相談するような会議も、もちろんあっていいと思います。しかし、こういう大きな場所で手を挙げてやり取りをする会議も、必要だと思います。そういう色んなものが取り混ぜられる中で、新しい市の仕組みが、次第に定着していくことを期待したいと思います。

これから富山市に望みたい事ですけれども、第一に今日市長もおっしゃった、この海から山までのこの空間の多様性というものを活かしていけるかということが、勝負になるだろうと思います。何も私は村の出身だから、山の方ばかりを見ろと行っているわけではありません。例えば中心市街地がいかに輝くかという事は従来もそうですが、新富山市の大きな課題だと思います。富山という所は、最初に申し上げように、割りに大きな企業があり、そこにくっ付いていけば、あまり悩み無く順調に來れたと言いますか、周りと同じように兼業農家をやっていたら大丈夫だとかいうようなところがあり

ますので、まちなかに個性ある人が集まってくる雰囲気が、ちょっと少ないかなという気がします。

私は、ヨーロッパの都市へもよく行きますけれど、都市というのは、人が人を眺める所ではないかと思います。パリの街角のカフェで、コーヒーを飲みながら道行く人を眺めている。近頃はこんな人もいるんだなあとか、その中には、奇天烈な格好をした人がいたり、街角でツタンカーメンの真似をして、1日中立っている変な人もいます。そういういろいろな人から時代の風を感じるのが、都市らしい都市ではないかと思います。常に他人と出会っている、他人と接触している、これが都市のセンスです。

富山県は、マイカー所有率が日本一で、この前パーソントリップといって、移動時間の何パーセントを車に乗っているかという調査をしたら、全国でダントツだったんです。空前絶後といわれるほどの数字でした。それほど、富山の人は車から離れない。私はこれを皮肉的に見るならば、やはり人見知りしているのかなあ、車の中に一人っていると安心しているのかなあと、少しいやらしい見方をしたくなるくらいであります。知らない人と出会う、そこで影響し合う。今の時代はこうなんだなあ、時代の風を感じながら洒落たものに触れるという雰囲気が、もう少し出てきて欲しいと思います。

都市の産業が栄えてこそ、そしてそこで都市らしい生活が生まれてこそ、農山村に目が行くのであります。今、自然の価値などに、一番敏感なのは東京の人なんです。富山はあまりにも自然に恵まれていますから、50m位行けば自然があるという雰囲気があって、そういう意味での都市的な感覚というものも育っていない感じもします。都市が都市らしく栄えて、周りの農山村が自分達の生き方をみつけるという関係が、この富山市という一つの市の中に生まれれば、こんなに素晴らしい事はない。これこそ、全国に誇れる事だろうと思っています。ですから、中心商店街にしても、空き店舗は当然出てきます。それが、すべて昔のようにお店でぎっしり埋まるということは、なかなかありえない。そこにどんな新しい仕組みが出来るか、その空き店舗という空間を、どう新しい時代の風にあうように使うか、使い方を編み出すという事であります。そういうことをぜひ、中心部においてもぜひお考えいただきたい。

あと、観光も大事でございます。日本が世界に誇れないもの。これだけ経済成長して、かつては国際収支が黒字で大叩きされましたけれども、観光だけは、大赤字でございます。日本人が外国へ行って使うお金の3分の1から4分の1位しか、外国人が日本へ来て使ってくれない。それだけ、人を迎える仕組みがやはりまだまだ整っていない。国内で言いましても、富山は金沢なんかとすぐ比べますけれども、やはりまだ発展途上であります。例えば、立山アルペンルートを超えてくる人を、どうやったら富山市に滞留できるかというような仕組みを、お考えいただきたいと思っております。

先程、都市型人間の話申し上げましたけれども、都市型人間が増える事によって、公共交通というものがちゃんと機能するようになります。それから一方で、自然の豊かさというものに目を留める人も増えてきます。今、富山市は、富山港線を路面電車化されるというお話がございます。それが、将来、富山市の中心部までつながって、電車で人が多く行き来するようになると、それも新しい時代の風でございます。

それから第二のお願いとしましては、新しい住民参画の仕組みというものを、この新富山市で育てていただきたい。今、日本で住民参加が一番進んでいるのは、北海道のニセコ町だと言われております。ニセコ町で、一昨年、町の図書館を造る時にどうしたかと言いますと、図書館を造りますから関心のある人集まって下さいということを広報で流しました。何日の何時、夜ですけれども。そうすると最初は5人位集まってきた。そこで、図書館を造ろうと思うんですが、大体はこういう線で考えているのですが、皆さんどういう希望がありますかねと。もちろん1回では誰もそんなことを思いつきません。では、来月また集まりましょうということで、だんだん人が増えていきます。その中から真剣に、例えば自分の子供が学校が終わってから、どのように図書館で過ごせばいいのかということ、考えるお母さん達も出てきます。そうやって図書館を考える会というものが出来て、町の担当者とともにこの建物をどうやって使えばいいのかという話しをすると、最終的には、そんなに贅沢なものはいらないという意見が大体出てきます。結果として住民の意見を取り入れて、しかも、専門家の意見も採り入れながら落ち着く所に落ち着いていく。そういう時代になりつつあると思っています。では、運営はどうするという話になると、私達やらせてもらおうかしらといって、お母さん達の中からボランティアの希望が出たり、私ちょっと仕事があるから、賃金が少しもらえるならいいわとか、そういうのを色々組み合わせて運営をする。こういうやり方を採っていると、意外に落ち着く所に落ち着く。その中には、新しいことを勉強して語る人も出てきます。こういうことが、何も広い富山市全体として考える事ばかりではなく、やはり地域とか地区で考えていくべき事がたくさんあるだろうと思いま

す。そういう話し合いに人が参加して、そして議論し、ある結論が出る。こういうようなことが、新しい時代の地域の力だと考えております。

ちょっと前までは、国あるいは市町村の財政が豊かで、余裕があって、役所主導でいろんな事が考えられました。しかし、お金の無い時代にこそ、人のパワーというものが必要であります。それも自分たちの意見を持ち、自分たちの願いを叶えるための参加というものが、実りある人生につながるということは、かなり常識になりつつあると思います。

空間と人は、合併しても変わる訳ではありません。ですから、問題によっては、地域地域で独自のやり方を見つけるということも必要だろうと思います。富山市の中心部で、人口が多い事を前提にして育ってきたやり方を、単純に周りの町村に押し付けるのもいかなものかなあというようなところで、そういう議論が当然出てきていいであろうと思います。

私、山口県のある町で昨夜11時まで、まちづくりの会議に付き合っていました。この富山でも、そういう会議が方々で行われるような日が来ることを、期待したいと思います。

最後に、自治体職員の資質向上ということにも、ぜひ、これから力を入れていただきたい。これは、40万人余りの新富山市というものをいかに考え、いかに運営していくかというのは、オリジナルな問題なんです。他の真似をすればいいと言う問題ではありません。新しいセンスと、きちっとした論理的な積み上げをやりながら現場から考える。これは、本当に自治体職員というのは、そういう意味では大変な仕事である訳です。

今、全国に何とか方式と言われるような、その自治体独自のやり方で、結構普遍化されるようなことが生まれつつあります。ぜひ富山もそうなっていただきたい。私、自治体職員の研修やいろんな事業に付き合っておりますけれども、富山県は全体としてそういうものへの参加が少ないです。リーダー塾というものには、かつて富山市から1人来ておりましたけれども。

あと、学生を地域に派遣して、夏に預かってもらう地域づくりインターン事業。あるいは、昨日山口県に行っておりましたのは、国土交通省の地域振興アドバイザー事業ですが、こういうものも全般的に富山は少ないです。あまりこういう事を言うと嫌われますが、やはり今までこういう事を真剣に考えなくても、なんとか成り立ってきた面があるのではないかと思います。この新しい時代を切り拓く為には、人が力を付けることしかないということなのであります。先程例に出したニセコ町は、この厳しい財政難の時代に、まだ1千万近い職員研修費を確保しております。要するに、それが最優先であり、住民の幸、不幸は、職員の資質によって決まる時代という事を、そこではお考えだという事であります。

いろいろ申し上げて参りましたが、富山というところは、日本が順調に成長した時代には、大都市とは違った意味で、そのトップを切ってきたところです。そして、住みやすさ、暮らしやすさ日本一とかというのは、その結果なんですね。ただ、この転換の時代に、今度は足元を見て、自分の足元から出発するための何か新しい勉強ということが、私はあっているのではないかと考えております。そういう意味で、ぜひ、この大きな合併を機会に、各地域の方々は、俺たちの所は何を考えればいいのかということを、第三者の意見も交えながら議論していただきたい。この新富山市のあちこちで、まちづくり会議のようなものが、行政が上から持ち掛けなくても、どんどん生まれてくるような市になっていただきたいなあという事を申し上げて、本日の話を終わらせていただきたいと思います。どうも長い間ご静聴ありがとうございました。

司 会

宮口先生、どうもありがとうございました。皆さん、いかがでしたでしょうか。ただ今の講演をお聞きになられまして、この富山地域の素晴らしさを再認識するとともに、地域づくり、まちづくりの必要性について、認識を深めていただくことができたのではないかと思います。なお、質問などをお受けする時間を、後ほど設けておりますので、よろしくお願い申し上げます。宮口先生、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、富山地域における合併協議の概要につきまして、事務局よりご説明申し上げます。

■合併協議概要説明

富山地域合併協議会事務局 調整課長 佐近成昭

合併協議会の佐近と申します。よろしくお願いいたします。

資料としましては、先程お配りした、「新市のすがた」をご覧いただきながらご説明申し上げたいと思っております。

1 ページ目を開いていただきますと、4 月 1 日に新しい市が誕生するという事で、右側の地勢と人口というところに、面積が 1,200k m²になるということで、これは全国の市で 4 番目に該当します。ちなみに、1 位は隣の高山市です。県庁所在地では、静岡市に次いで第 2 位という大きな市になります。

次に、4 ページをお願いいたします。ここに書いてあるのは、新市の建設計画というものです。この建設計画というものは、まちづくりの基本的な指針となるもので、ここに将来像と基本理念が書いてあります。その将来像としては、「環境と創造のゆめ舞台」ということで、3 つの基本理念、交流する、共生する、そして創造するという事で、まちづくりを進めて参りたいと思っております。

次に、6 ページをお願いいたします。合併の方式等は、ここに書いてございます。具体的に、まず議会についてでございますが、新市の議会の議員定数は 46 名としますが、新市になりました最初の選挙に限りまして、48 名といたします。合併の日から 50 日以内に行われる選挙でございまして、5 つの選挙区を設けます。いわゆる中選挙区制ということでございまして、その後行われる選挙からは、1 つの区域として選挙が行われます。

6 ページの下段でございまして、地域審議会と書いてあります。これにつきましては、新市の施策を実施するに当たりまして、住民の皆さんのご意見をお聴きする為に、6 町村の区域ごとに、この地域審議会を設置するというものでございます。

7 ページの上の方ですが、町・字名の取扱いという事が書かれております。具体的には、現富山市については、現行のとおり変わりません。大沢野町、大山町、細入村に関しましては、旧町村名を冠しません。なお、八尾町、婦中町、山田村については、現行の大字の前に、それぞれ、八尾町、婦中町、山田を冠します。なお、4 番目に書いてございますように、重複する町名があるかと思いますが、これにつきましては、以下のように町名変更ということで対応していきたいと思っております。

次に、9 ページ、これは地方税の関係です。まず固定資産税です。これについては、現在の 6 町村におかれましては、1.5~1.6%の税率になっておりますが、平成 18 年度から、一番低い富山市の税率の 1.4%に統一していくことになります。また、下段の方の都市計画税でございまして、これにつきましては、現富山市は平成 18 年度から現行 0.3%が 0.25%になります。また、婦中町の一部、市街化区域につきましては、平成 23 年度から 0.25%をお願いすることになります。婦中町の区域におきましてはここに書いてございますように、平成 17 年度から 22 年度までは課税はされません。

次に、10 ページをご覧ください。これは事業所税ということで、人口 30 万人以上の都市におきまして課税される税金になります。これにつきましては、6 町村の区域におきましては、段階的に課税をさせていただきたいと考えております。なお、ここに書いてございますように、平成 23 年度から統一した課税になります。この税につきましては、基本的にはどちらかといいますと、個人の方というよりも、法人の方々が対象となることが多いと思われます。

次に、11 ページでございまして、水道料金や簡易水道料金ですが、これにつきましては、現在の富山市の料金体系に統一していきたいと思っております。基本的に、現在の 6 町村の方々の基本料金は、一部口径等により多少の違いがありますが、おおむね下がるものと考えております。

次に下水道でございまして、これにつきましては、当分の間、現行のとおり現在の料金でお願いしたいと考えております。なお、出来るだけ早い時期に、料金が統一できるよう努めてまいりたいと考えております。

次に、13 ページをお願いいたします。国民健康保険料というものです。現在、7 つの市町村の保険料につきましては、それぞれ地域の状況に応じて定めている関係上、違いがございます。そこで、平成 17 年度か 19 年度の 3 ヶ年に限りまして、それぞれ、現在の市町村の保険料の料金体系となります。平成 20 年度から統一したいと考えております。

次に、14 ページでございまして、現在、富山市と 6 町村の介護保険料は、若干の差がございまして、これにつきましては、安い方の、現富山市の保険料で平成 17 年度に統一する事になります。平成 18 年度以降の保険料につきましては、新たに介護保険の事業計画等を作成いたします中で、決めていくことになろうかと思えます。

次に、15 ページをお願いいたします。保育料につきましては、ここに書いてございますように、保護者の方の所得税額等に応じまして、それぞれ定められております。現在、7 市町村の保育料はやはり違いがあります。国では 7 つの階層区分を設けておりますが、現在、一番少ない町村でも 8 区分、そして多いところでは 18 区分の階層を設けております。そこで、調整をするのが大変でございまして

で、平成 17 年度から 21 年度にかけて徐々に調整を図りながら、平成 22 年度から統一したものにした
と考えております。

次に、真ん中の方に書いてあります幼稚園の保育料については、1 市 1 町と 3 町では保育料の違い
がございます。これについても、5 年で統一したいと考えております。

通学区域については、現行のとおりということで変更ございません。

次に、16 ページ、17 ページでございます。新規企業の立地の促進ですとか、中小企業向け融資
制度につきましては、それぞれおやりになっており、補助率や限度額等に違いがございますが、比較
的制度が充実している富山市を基本に、次のとおり統一して参りたいと考えております。

次に、18 ページをお願いいたします。中段のところでごみの収集ののですが、それぞれの区分とい
うことで、可燃ごみからいろいろあるわけですが、週何回とか月何回というかたちで統一を図
っていきたいと考えております

また、今日も雪が降ってございましたが、除雪につきましては、除雪体制は現行どおりで進めてまい
りたいと思います。

また、それぞれの地域でコミュニティバスが運行されているわけですが、これもそのまま引き継ぎ、
合併後、調整をしていきたいと思っております。

最後に、19 ページの組織及び機構でございますが、ここに書いてありますように、住民の方々に
身近な行政拠点として総合行政センターを現在の 6 つの町村役場に設置して、窓口サービスの向上に
努めてまいりたいと考えております。

下段の方の地区センターは、現在、富山市に 49 ございます。これは、具体的に何をやっているか
と申し上げますと、戸籍や住民票等の諸証明の発行等をやっております、これを新しい市域の、基
本的には小学校区ごとに設置したいと考えております。

以上、簡単に新市の概要ということで申し上げました。詳しい内容等は、合併協議会のホームペー
ジや各市町村のホームページ等にもございますので、それをご覧いただければと思っております。以
上で説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

■トーク＆トーク

テーマ

「わが地域の輝かしい未来に向けて」

コーディネーター

早稲田大学教授 宮口 侗廸 氏

パネラー

富山市長	森	雅志
大沢野町長	中齊	忠雄
大山町長	高尾	道明
八尾町長	中林	甚勝
婦中町長	大島	外夫
山田村長	山崎	吉一
細入村長	野尻	昭一

司 会

時間になりましたので、只今より「トーク＆トーク」を始めさせていただきます。

コーディネーターは、先程ご講演をいただきました宮口先生です。そしてパネリストとして 7 市町
村長にご参加いただき、本日のテーマ「わが地域の輝かしい未来に向けて」について大いに語って
いただきたいと思います。それでは宮口先生、よろしくお願いします。

宮口氏

今日は、4 月 1 日に合併されます 7 市町村の市町村長さんに並んでいただいております。既に合併
の日を待つばかりとなりました。色々な曲折もございましたが、新しい市の誕生を目指して、思いが
あることだろうと思います。これからの約 1 時間、思いを語っていただきたいと思います。今まで色々
な会議で議論を積み重ねてこられました。今日は、あまり細かいことにこだわらずに、大きな視点か
ら、自分達の地域の将来に向けて語っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

まず最初に、それぞれの市町村で合併に向けてこれまで取り組んでこられたこと、或いは自分達の地域で大事にしてこられたこと、そして将来、自分達の地域がどういう風に発展していけばいいかというようなことをそれぞれ語っていただきたいと思います。

それでは、始めに、細入村長からお願いします。

野尻細入村長

先程、宮口先生のお話を聞いておりまして、私たちの地域は現代日本の産業構造で一番恩恵を受け、また、そのために今、困った現象が現れていると思います。と言いますのは、早くから高山線や国道41号が整備されて、人々は富山市や大沢野町へ働きに行けたということ、それから、早い時代から軍事工場が疎開してきたり、神岡鉱山が増産していたり、或いは、水力発電の巨大な開発が入ってきたり、自分達で産業を造らずに、お金儲けができた、そんな楽な時代だったわけです。交付税を貰わなくても、済んだ時代がありました。ところが、ある時点から都市の方へ人口が流出するようになって、自分達の地域は通過地でしかないと反省したわけです。その中で、平成元年の村100年の記念の年に、これからしっかりとした地域をつくっていかなければならないと考え、昔から富山県の南玄関口、飛騨と越中の県境で街道による文化・経済交流の拠点だったという原点に立ち返り、お隣の宮川村と近いのに疎遠だった反省を踏まえ、飛越の交流を始めました。それから、「らっきょう祭り」を基本とし、「飛越ふれあい市」や「飛越ふれあい味祭り」等を組み合わせて開催したところ、皆さんに昔の時代の良かったところを思い出させてくれる地域だと理解していただきたいと思います。そして、「道の駅」ができたり、温泉の「楽今日館」を造ったり、森林公園の「天湖森」を造ったりして、皆さんが一休みできる癒しの場になっております。今後も新富山市の南玄関口として、「関所館」もありますが、県境の歴史・文化を大切にしていこうと考えております。また、近々、「円空」さんの足跡を訪ねた飛越交流として、小さなイベントをやろうと話しております。

また、私たちの地域は、地域高規格道路が完成しましたら、市街中心部から30分もかからない、早ければ15分から20分のエリアになりますので、今、定住促進として、150坪程の広くて安い分譲地を造って、自然の中で家庭菜園等をやって暮らしたいという人に来ていただきたいと考えております。

私達の地域の良さを皆さんにご理解いただいて、皆さんが遊びに来ていただける交流の拠点となりたいと考えております。

宮口氏

ありがとうございました。

県境にある飛越の交流をベースにした癒しの場として、住宅も含めてそういう発展を描いているというお話でした。

続きまして、山田村の山崎村長、よろしくお願いします。

山崎山田村長

私達の地域は、山村で、行き止まりの村であることから、過去その問題をどう解決するかということで、スキー場を造り、温泉を開発し、そして最近では情報化について努力しております。また、道路網の整備が一番重要になってくる地域であります。以前は山田温泉を中心として、富山市の奥座敷として利用していただき、地域の交流に活性化を与えていた歴史があり、ご存じの方が多いと思います。最近では、富山市との交流もあり、学校の子どもの体験施設として「子どもの村」があり、年間約8000人の人が利用し、活動しております。そういう若い人達との交流という面で、新市でのつながりになるのではないかと思います。

山田村は、合併協議会の第1回目は出席しておらず、第2回目から出席しております。これには理由があり、昭和の合併では混乱の例が色々ありましたが、当山田地域が、昭和の合併の悪い例に当てはまるのではないかとということで、住民の方々が議論し、2ヶ月程遅れたわけです。

今回の合併では、昭和の合併の二の舞を踏まない地域づくりをしなくてはならないということで、これまで村民と協議をしてきました。幸い、合併協議会の経過によって、福祉の問題等活性化が図れるという段階に入りました。

これからの山田村には、まず、袋小路を解決していくこと、そして、農業と観光を結びつけた地域づくりをやり、市町村の垣根がなくなることから、広域観光を重要にしながら、皆さんの意識が深ま

っていくことを期待しております。

そのことが、山田村の将来を基礎づける大事なことであり、村民の皆さんが地域一丸となってがんばっていかうという気持ちでいるわけです。

宮口氏

ありがとうございます。今回の新市の中では、一番真面目に農業をやってこられた地域ではないかと思っております。新市建設計画では6次産業化という言葉を使っておりますが、山の田んぼがたくさんあり、そこを観光と結びつけたものを目指していただきたいと思います。

それでは、続きまして、大島婦中町長、よろしくお願いします。

大島婦中町長

従前から婦中町は、カドミウム汚染というマイナス面があり、汚染農地の転用を含め、農工商一体となった発展を願って町政の進展に努めてきました。南に八尾町、山田村、そして、北に富山市があり、その中間に婦中町が位置しており、高速道路や富山空港等に近いという恵まれた地の利を活かして、企業誘致や定住を進めてきた町であります。おかげさまで、町村では県下第1位の人口を有する町として発展してまいりました。

汚染の土地対策は残っていますが、今後目指すべき地域の発展方向としては、ハード面では、町に住む人達の環境整備や文教教育施設の整備を中心とした社会資本整備が重要だと思っており、新市建設計画に盛り込んできたところであります。

また、呉羽丘陵一体に広がる古墳群の整備、或いは、レクリエーションゾーンの連結整備をして、歴史とロマン、自然に恵まれましたゆとりのある、住みよい環境と創造のまちを目指し、今後もそうありたいと思っております。

また、ソフト面では、地域活動として取り組んでいるイベントがありますが、それらを含めて地域のコミュニティゾーンを大いに活用して、まちが更に飛躍することを願っております。

宮口氏

ありがとうございます。

富山市に隣接して、人口がどんどん増えている町で、色々取り組んできた内容をお聞きしました。

続きまして、中林八尾町長、この中では比較的最近町長になられたわけですが、よろしくお願いします。

中林八尾町長

八尾町では、豊かな自然と伝統文化と先端技術工業の3つが融和するまちづくりをテーマに進めてきています。

1番目の豊かな自然の活用については、町全体の80%が森林地帯となっている状況で、農業・林業を含めて担い手の育成等、最新の農業・林業を目指していることはもちろん、構造改革特区の「越中八尾スロータウン特区」で、農業や林業を楽しむことにも取り組んでいます。一番山村にあたる大長谷地区（旧大長谷村）では、昭和の合併が原因で過疎化が進んだと言われていたのですが、私はそういう考え方は持っていません。現在、県が「21世紀の森」を進めており、町が掘りまして、温泉が4月にオープンいたします。また、体験農業ができる場を新年度から計画をしております。それらは、大長谷の豊かな自然の中へ市民の方が来て、自由に活動をして楽しんでいただくものであります。したがって、春等に山菜等を取りに来られる場合は、どこも自由でありますので、市民の方々に楽しんでいただきたいと思います。

次に伝統文化については、「おわら」や「曳山」、各地区の「獅子舞」等非常に長い歴史を持ったものがございます。旧の「おわら」の場所について、電柱をなくするとか石畳にするなどを進めて伝統文化の環境づくりを進めているわけですが、これからは、町の玄関口である駅前周辺の整備を進めることも新市建設計画の中に盛り込んでいるわけです。

もう一つは、先端技術工業についてであります。「富山八尾中核工業団地」を持っておりますが、これは内陸型では北陸で最大であり、南団地、北団地、中央団地の3つの進め方をしてきたわけですが、そのうち、南団地と中央団地は完売し、現在26社が操業しており、どの企業も順調に展開していると聞いております。あと北団地が約10社ほど入る予定地を持っております。こういう時代であ

りますので、まだここには10売れ残っているという考え方もありますが、ここにはまだ10社も入れるよという意気込みで、是非、新市の中で誘致をしていただいて、八尾地域は豊かな自然と伝統文化とそして先端技術が融合する地域という位置付けで皆さんのお力添えがあれば、将来は非常に明るいのではないかと考えおります。特に新市の基本理念である「共生」、「交流」、「創造」にマッチするのではないかという思いを持っております。

宮口氏

ありがとうございました。自然と伝統文化と先端産業、みんな揃っていて、それがうまく融合していく。私も以前、八尾文化会議というところで一緒に議論させていただきましたが、すばらしい地域になっていけばいいと思います。

それでは続きまして、同じく最近町長になられました高尾大山町長、よろしくお願いします。

高尾大山町長

最も最近町長になりまして、私の任期は4ヵ月ということで、なったばかりなのに残り1ヵ月余りです。

大山町は、有峰の電源開発に始まった水力発電のまち、下水道の普及率が大変進んでいる環境にやさしいまち、そして、福祉のまちづくりがかなり認識されていると思っております。

有峰、福沢地区の学園都市、立山山麓のスキー場、恐竜等、大山町は観光面で魅力的なところが多いと思います。現在は、「豊かな自然と共生し、活力と創造力があふれるまちづくり」の実現に向けて、人、環境、産業、そしてイメージづくりを基本理念としてまちづくりを行っているところです。

新市が目指す「環境と創造のゆめ舞台」では、我が町は人や自然、芸術を重視し山、里、海へと広域的に展開する上での一翼を担える地域になっていけばいいと思っております。

人づくり、観光の面で、大山町が、今後、伸びていくことを期待しております。

宮口氏

ありがとうございました。

大学もありますので、是非、伸ばしていつていただきたいと思います。

それでは、中斉大沢野町長、よろしくお願いします。

中斉大沢野町長

大沢野町でございます。先程からの皆さんのご意見と重なる部分があると思いますが、特に合併を進めるにあたって重点的に町民の皆さんに説明してまいりましたのが、なぜ合併が必要なのかということです。現在、また10年後の町の財政状況、或いは国の三位一体改革がどう進むのかについて説明いたしました。2回目の説明会からは、合併して町民の皆さんが幸せを感じるように、そして、合併によって不満がでないように、そのことを協議しながら進めていることを申してまいりました。

協議を進める段階では、今のサービスを維持できないものもありました。しかし、総合的には皆さんのご理解を得たと思っております。従って、今のサービスをできるだけ長く維持できるように、そして幸せを実感できるように、そのことをまず中心に進めてまいりました。

これからは、県都富山市の奥座敷として、市民の皆さんに来ていただきたいと願っております。

たくさんの温泉がございますので、是非、皆さんのおいでをお待ちしております。

宮口氏

ありがとうございました。

温泉の話しがたくさん出てまいりましたが、新しい富山市は色々な資源を抱え込むことになります。

それでは最後に、森富山市長、お願いします。

森富山市長

いよいよ三十数日で新市が発足するわけです。今、各町村長の皆さんが話されましたが、それぞれの地域が、長い歴史や営みを背景としながら、こういう風な地域づくりをしていきたいという意欲があるわけですから、4月1日からは、そういった意欲をみんなで受け止めながら、一つ一つ着実に実現できる方向に、みんなが手を携えて取り組んでやっていくことが大事だと感じました。

とにかく、海拔0メートルから3000メートルまでと言いましたが、その海拔0メートルのもう少し北側には、マイナス1200メートルまでであるという神秘の海富山湾があって、「ホタルイカ」から始まって冬の「ぶり」まで、1年を通して全国に誇れる大変豊富な水産資源があります。そういったコンパクトな中に多自然が広がっており、歴史的な資産も含めて、大変大きな資源がございます。これを、新市になってから、どう力や魅力を発揮していくのかが大変大事な要素だと思っております。そういったことの具体的な施策一つ一つをみんなの力で展開しながら、住民の皆さんに、地域発展の方向を実感していただけるような市政運営をしていくことが大事だと思っております。

合併しますと4,500人位の職員数になりますので、今までの行政サービスの水準を1年でも長持ちさせるために、職員が全精力を傾けながら、同時にスキルアップしていくことが大事だと思っております。結果的には、職員数を減らし、行政コストを下げることも同時にやっていく必要があると思っておりますが、いずれにしても、大変多面的な顔を持つ、新市の魅力をそれぞれの地域で、しっかり光り輝くように誘導していくということに尽きると思います。

もう一つの視点としては、新市は川上から川下まで一体となる都市になります。将来の本当の意味での安全・安心を生むうえからも、川上にあります森林をどう再生させていくかが大変重要な視点だと思っております。幅広い市民、つまり、川下にいる市民も含めて、川上にある森林を再生させることが新市の取り組みとして大変大きな柱の一つであると思っております。こういったことも訴えながら、行政だけが担っていくということではもたない時代になってきましたので、市民の皆さんの協力、協働といった、汗をかいてもらったり、知恵を発揮してもらったり、そういったことも全面に出しながら市政を運営していくことがこれからは求められているという認識でおります。

宮口氏

ありがとうございました。

只今、森市長が森林に触れられましたが、新市では新しく「森林政策課」ができることになっているようです。そのようにちゃんと手を打っておられますので、私も安心しております。それから、森市長の言葉で「協働」という言葉がでましたが、昔の「きょうどう」は「共同」と書いておりました。もちろんそれは、今でもあります。新しい最近の言葉として協力の協と働くという字を使う「協働」が今大変多く書かれています。私流に簡単に言いますと、これは立場が違ったり、違う力を持った人達が一緒に働くことによって、飛躍的な良いパワーを生み出すということだと思っております。

昔の農村社会とか街の中は同じようなタイプの人がみんな一緒に暮らしていたわけですが、今は色々なパワーを持った人がいます。それから、行政と住民はもともと違う力を持っています。そういう違う力が一緒になることによって、すごい飛躍的な結果を生み出すという意味では、「協働」という言葉がよく使われるようになりました。そういうことに関連するんですが、これだけの多様な地域が一緒になって新しい市になり、山もあり海もある、そういうところがそれぞれの価値を発揮するためには、今、職員ががんばるとおっしゃいましたけれども、地域の人達も一緒にがんばってもらわなくてはいいけません。そういうことができるように、地域の人達も新しい時代に向けての勉強をしていただくことが必要であると思います。「行政が何をしてくれるんだ」ということだけでは済まなくて、自分達も参加することによって、ものすごい良い地域になるということです。そのもとに、今度の合併では、富山市以外の6町村に「地域審議会」が設置されることになっています。それで、今までの地域の単位で考えたり、色々工夫することがあるということです。森市長、その辺りにつきまして、どのように捉えていらっしゃるか簡単にお話ください。

森富山市長

富山市を除く6町村に、新市になった以降「地域審議会」を置くことに決まっています。一連の合併の動きの中で、「地域自治組織」という、言わば「区」にあたるものを設置することなども制度として生まれてきましたが、「地域審議会」とは、そこまでいかなくとも住民の皆さんの、或いは地域の抱えている問題をしっかりと行政に届くように意見をまとめる場が必要であろうと設けられているものです。新市長が委嘱する附属機関として設置することになります。それは、議会のように議決するとか、行政の仕事をチェックする権能をもっているわけではありませんが、新市建設計画を10年のスケジュールとして作ってきたので、これの進捗状況といったこと等も「地域審議会」の中での話の対象としていただくことが予想されます。

或いは、新たに地域が抱える問題について、それぞれに議員がいらっしゃって議会もあるわけです

が、そういう立場と違う視点で行政に届けていただくことにも効果があると思っております。人数は、1地域20人以内となっておりますが、新市になりました後、検討することになると思います。私の経験から言えば、私は小学校を卒業する時は、婦負郡呉羽町でございまして、その3月に呉羽町の小学校を出て、4月に富山市立呉羽中学校に入学しました。昭和40年のことです。それから、40年間富山市の一員として呉羽地区は動いてきましたが、もちろん「地域審議会」はなくて、「体協」や「PTA」など、6つの小学校単位に色々な組織ができており、その上にもう一つ、であれ6校下の集合体としての組織も今もしっかり機能しています。つまり、かつての「呉羽町」であった時代から、相変わらず色々な組織や機関が、形を変えながら脈々と動いています。そして、呉羽地域全体の問題については、絶えずそういう組織が色々と議論したり提言したり、それを富山市へ要望したり、陳情したりして動いているわけです。そういったイメージで、「地域審議会」が設置され、それぞれの地域の声を行政に届けていく取り組みは、今後も継続されていくと思っております。

こういったことも参考にしていただきながら、市域が広がったから行政との距離が遠くなるということではない取り組み、仕組みがこれから模索されていくのであらうと思っております。

宮口氏

ありがとうございました。

今の問題につきまして、全員にお伺いすれば良いんでしょうが、時間がございませんので、町を代表して中斉大沢野町長、村を代表して野尻細入村長から今後の地域運営ということで、今考えていることを伺いたいと思います。

まず、中斉大沢野町長からお願いします。

中斉大沢野町長

森市長から、「地域審議会」の位置付けにつきましては、ご説明がありましたが、私は非常に良い制度だと思っております。特に、新富山市は、面積、人口等大変大きなものになります。従って、住民の声が行政に届きにくいという不安が住民にあるわけです。そういう意味では、この「地域審議会」が果たす役割は大変重要なものだと思っております。そのため、新市長及び新市議会議員の皆さんは、「地域審議会」の意見をよく聴いて、行政運営にあたっていただきたいというのが私の考えです。

宮口氏

ありがとうございました。

それでは、野尻村長、お願いします。

野尻細入村長

私達の地域は、神通川の左岸に細長く集落が点在していて、これまでは、それぞれの集落が役場と直に話しをすれば用が足りたわけです。ところが、これからは集落の枠を超えてしっかりと地域全体を考えるようにしなければいけないということで「自治会連合会」という組織ができ、色々なことを相談していただけるようになりました。これからは、旧の自治体の枠を超えて、課題の共通する地域は、自治会同士が話し合いをして、それをまとめて市の方へお願いするという形に変わっていくべきだろうと思っております。

私達の地域で一つ自慢できるのは、雪に対する体制です。過去の豪雪の苦い思いから、十数年かけて現在の体制ができましたが、行政は村道と認定したところは受けるが、不十分なところは、地域に貸し出した除雪機械がたくさんありますので、それで地域で自主的にやっていただくということになっています。今朝も村内で数十台の除雪車がボランティアで動いております。雪が多いからといって、心配がないようなところまできました。これから、災害やまちづくりの点で、自分達がやれることは自分達でやろうと、しかし行政にやってほしいことはこれだと、そこでいかに協力体制を作れるかということが大切であらうと思えます。

これからは、「協働」という考え方をどんどん進めていくのがいいのではないかと考えて、私も地域の皆さんにお願いをしております。

宮口氏

ありがとうございました。

全国で合併を機会に、改めて「自治」とはどういうことなのかと皆さんが考えるようになっていきます。経済がゆとりのある時代には、行政が何でもやってくれたものですから、その時代に「自治」という言葉が遠のいていたということはないことはありません。今、細入村で集落単位で個別の自治会しかなかったものが、細入を単位で自治会連合会がもう既にできていて、ある広がりわかりやすい範囲で物を考え、そして一緒になって力を出すという基本的な単位として今、「地域審議会」みたいなものが制度化されているということです。そういう点では、将来、人口が少なくて議員が一人も出せないというところも出てくるかもしれませんが、しかし、どういう制度でどのように自分達が話し合っていて、話を上へ持って行けば良いかという仕組みができつつあるとご理解いただければいいと思います。

今、森市長が呉羽のことを言われましたが、富山市の中にだって「地域審議会」をいくつか置くことも考えてもいいわけで、何も山の方だけで、「自治」「自治」と言っている必要はないわけですし、そういう新しい展開が今後10年位の間に見えてくると、日本全体が活気付き、そして厳しい合併の時代を何とか通り抜けて、日本が再生する方向に向かえばいいと思っています。

それでは、最後に、新しい富山市ができて、そして次第に一体感をもった自治体になっていくということですが、新市に対して、一言これだけは言っておきたい、あるいは、お願いしておきたい点をお伺いしたいと思います。

それでは、野尻村長からお願いします。

野尻細入村長

先だって森市長が、韓国まで観光客の誘致にご努力いただいて、頼もしいと思ったわけですが、国際交流もどんどん進めていただきたいですし、中京圏や関東圏との交流もどんどん進めていただきたいと思います。こんなに大きな市ができましたので、新市の中での市民交流も進めていただいて、早くお互いの地域を理解するということが大切だと思います。大いに「交流」「共生」を進めていただきたい。

もう一つお願いしたいのは、インターハイや国体で神通川に県営ボート競技場ができていますが、湖面を大いに使っていただくために、村もご寄付等いただいて村有艇をたくさん導入しておりますので、新市の中で「市民レガッタ」を取り入れていただきたいと思います。神通川の有効利用など、今まであまり使われていなかった面もどんどん取り入れていただきたいと思います。

宮口氏

ありがとうございました。

「市民レガッタ」という、市民のボート競技なんかも行われるようになってほしいという夢のような話しでした。

山崎山田村長

まず、地域の皆さんが早く一体感を感じる新市にしてほしいということ。2番目には、それぞれの地域で特徴のあるまちづくりが、実現できればと思っています。そして、最後には、長い期間がかかって検討しました10ヵ年の「新市建設計画」を実行することに市民は関心を持っておりますので、どうかよろしくお願いします。

宮口氏

ありがとうございました。

特徴がますます育つように「新市建設計画」を実現していった欲しいということでした。

それでは、大島婦中町長、お願いします。

大島婦中町長

私は、「新市建設計画」の着実な実施を特にお願いしたいと思っています。まして、実施計画につきましては、「市街地ゾーン」、「田園ゾーン」、「産業拠点」に位置づけられておりますので、当町地域のバランスある発展を図っていただかなければならないと思っていますし、自然との共生につながるような市にしていきたいと思います。

そして、何よりも新市としての一体感を醸し出して、合併して良かったと感じられるようなまちに

していただきたいというのが、私の新市に対する願いであります。

宮口氏

ありがとうございました。

何よりも早く、一体感を醸成するような取り組みを新市においても、考えていただきたいと思います。

それでは、中林八尾町長、お願いします。

中林八尾町長

先程は豊かな自然、伝統文化、先端技術について申し上げましたが、新市の中でこうした八尾地域の特色が見失われないように、ますます活かされるように進めていってほしいと思っております。その中でも、42万市民が、八尾地区というのはこういうところだから一緒になってやろうと思うことが重要だと思いますので、次のことが共感できる地域であることです。1つは、自然が満喫できる地域でありたいということ。もう一つは、文化が満喫できる地域でありたいということ。その中でお互いに学び合って市民として誇りが持てるものがほしい。3番目は先程、「協働」という言葉についてご説明がありましたが、「協働」が満喫できる、お互いに額に汗をして、ボランティアをして地域を盛り上げていくんだという満喫感がほしいということです。これらのことを未来を担う青少年への贈り物にしていきたいと思っております。

宮口氏

ありがとうございました。

是非、八尾町という組織が無くなっても、地域から支え合う姿を育てていただければと思いました。

それでは、高尾大山町長、お願いします。

高尾大山町長

まず、平成18年度インターハイのノルディック複合競技が大山地区で行われますので、その成功を願っているところです。また、「新市建設計画」の実現はもちろんですが、それぞれの地域ですばらしい特性を持っているわけですから、その特性を活かすために、お互いに認め合って、伸ばし合って、そして賑わいを増すということができればと思っています。

いずれにしても、行政、住民がそれぞれの立場で市民が主体となったまちづくりの実現ができるように希望いたします。

宮口氏

ありがとうございました。

高尾町長ご自身、スキーマの選手だったと思いますが、インターハイを控えてお世話が大変だと思いますが、またがんばってください。

それでは、中斉大沢野町長、お願いします。

中斉大沢野町長

合併をするにあたりまして、いろいろ協議しておりますと、中心部と周辺部の格差が出るのではないかと不安があったと思います。しかし、この問題は、先程、地域の特性を活かしたやり方があるとお聞きして、やはり地域力を活かすことによって、地域の発展につながっていくと思いました。

そして何よりも、市民生活に急激な変化を及ぼさないようにしていただきたいと思っております。

地域の歴史や文化が十分活かされるように、そのことが新市全体の発展につながると思っておりますし、何より日本海側を代表する中核市として、大いに発展していただきたいと思っております。

宮口氏

ありがとうございました。

頼もしいご発言でした。

それでは、最後になりましたが森市長、お願いします。

森富山市長

新市移行後に目指す一番大きな目標は、新市の市民としての一体感を市民の皆様方がしっかり感じていただくことを、一日でも早く作っていくことだと思っております。そのために、どうしていくかということが、市に問われてくるだろうと思います。

一方、日本が人口減少時代に入っていきます。かつて、誰も経験したことのない人口減少という事実をしっかり見ながら、しっかりとしていくことが大事だと思っております。ハードの計画は立っておりますし、同時にソフト面でも様々な計画をみんなで一緒に作ってきたわけですから、ソフトパワーというものを十分に発揮しながら、足腰の強い都市をつくっていくことが大事だと思っております。

かつては、地域は、「地縁」とか「血縁」とかが下支えしていたと思います。そういうものが、戦後60年の間に、少しずつ弱くなってきている。これから人口減少時代を見据え、地域力をどう発揮するかという時には、やはり元々日本社会に内在していたパワーをもう一度回帰させていくことは、大変大事だと思っております。

それに合わせて、団塊世代を中心として、ポテンシャルの高い人達が地域に戻っていく時期がもう数年後におきてきますので、そんな時代を見据えながら、その皆さんの力を市全体の発展のために活かしていくということを、具体的にどのようににつなげていくのかが問われていると思います。

いずれにしても、そういう取り組みをやりながら、市民の皆様がいつまでも新富山市民の自信と誇りを持続していくことが大変大事だと思っております。

今の時代の責任ある立場として、この7市町村長が今の合併協議の一翼を担ってきたわけですので、これからもそれぞれの立場でこのまとめてきたものの成り行きに一定の責任を果たしていかなければならないと思っておりますので、今後とも皆さん方と何かの形でお話をしていくことが大事だと思っております。

今日お集まりいただいた多くの市民の皆さんにも、同じように一緒に担い、つくっていただくこの気持ちをこれからも一層、旺盛なものにしていきたいと思いますようお願い申し上げます。

宮口氏

ありがとうございました。

市町村長の皆さんには、率直にご意見、お考えを述べていただきました。ありがとうございました。

ご発言の中に「新市建設計画」は、ちゃんと実現してほしいというご指摘がございました。これは、当然だと思います。そして、早く一体感を醸成するために、これだけ広い市なので、お互いに訪ね合い、付き合って、「相互交流」を深めようということです。これだけの市ですから、色々な人材がいます。山の中にすごい人がいるかもしれない。富山市の真ん中にもものすごい技をもった人がいるかもしれない。是非、そういう人達を見つけて、「相互交流」を深めることによって、全体のパワーがものすごく高まるだろうと思います。お互いに理解し、一緒になって、支えられるような、そういう雰囲気が一日も早く醸成されていくことを期待したいと思います。

今は大都市の人が、田舎の人の付き合いを羨ましがる時代になりつつあります。やはり、顔見知りの中で、気楽にものを言い合う関係、そしてその中で汗をかいて支え合うということを日本の人達はみんな持っていたわけです。そういうわけで、大都市の人が田舎を訪れたときに、そこに暖かい空気を感じるというようなことが常識化しつつありますが、その田舎の代表という、これだけの豊かな自然に恵まれた、しかも近代的な先端産業のある地域でもあった新富山市にあたる地域で、本当にさまざまな資源が活かされていく、日本に環たる富山市になってほしいと、私も富山市民の一人として是非それを願い、期待させていただきたいと思います。

それでは、トーク&トークを閉めさせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

■質疑応答

司 会

宮口先生、そして7市町村長の皆さん、どうもありがとうございました。

色々とお話いただきました。それを聞いて、感心事がおありかと思いますが、只今から、先程の基調講演を含めまして、何かご意見・ご質問がありましたら頂戴したいと思います。

発言を希望される方は、挙手をしていただければ、係の者がマイクを持ってまいりまして、こちら

で指名させていただきますので、よろしくお願いします。

質問者

富山市に住むマツウラでございます。2つあります。1つは、皆さんの計画について感心しているわけですが、ものづくりになるとお金がいるということで、今までも各市町村や県等が多くの借金を抱えている財政問題があります。それを、どのように解決していくのかが大きな問題だと思います。それともう一つは、これまでの話のなかに、「人づくり」についてはあまり深く入っていません。これらについて、もう少しお聞かせ願いたいと思います。

司 会

2点ご質問がありましたが、森会長からお願いします。

森富山市長

平成16年度の国の予算は86兆強ありますが、その内、税収が入ってきているのが44兆円です。足りない37兆円は借金をしているわけです。今、国と地方を合わせて、770兆円程の借金がありますので、とても簡単に返せる状況ではありません。税収が減っているのに、国の予算は伸び続けています。これをずっと続けてきた結果、今の状態になっています。そのことを考えると、国から地方自治体に入ってくる補助金や地方交付税は減ることはあっても、増えることはないと思っております。他方、どの自治体も現在、多額の起債残高を抱えておりますので、ご心配いただくとおり財政運営をどうしていくかということは、大変大事な問題であります。

行政運営をする上で一番大切なことは、健全財政を維持していくことだと思っております。見合いの資産も片方ではありますが、起債残高は確実にあって、公債費も大きくなっておりますので、合併特例法の措置による特例債を使えるから、今の財政規模以上に真新しい借金もできるから、それを積極的に使って「新市建設計画」にある事業等をやるという姿勢ではなく、現在見込める財源に基づいた予算をつくった後で、財源として有利な合併特例債を振り替えていくという方法で取り組んでいこうと思っております。従って、合併したら合併特例債が使えるので、たくさんの仕事ができる、だから一気にやろうという発想ではなくて、現在の財源で見込める予算をまず組んで、その財源の中に有利な合併特例債を振り替えていく、すると一般財源がその分浮いてきますので、それは健全財政につながるだろうと思います。色々な努力をして、今の予算を組んでいます、一つの基本的な大きな考え方であります。

それから、「人づくり」は非常に大事なことでありますし、また、難しい問題でもあります。この地域には色々な能力がある人、得意な方面で活躍している人がたくさんいるわけですので、まず新市になった後、そういった人材をどう発掘するかということは、大変大事な視点だろうと思っております。

加えまして、今度、小学校と中学校をあわせると、九十いくつになります。教育の面でも、どう進めていくのかということが、大変大事な問題だろうと思っております。

それから国体や県体にしても、県の代表は1チームでいいのか、人口の三分の一を占める富山市が今までと同じような派遣選手の数でいいのかということ等も含めて、色々な角度から検討しながら、体育の面、学校教育の面、生涯学習の面、そして埋もれている優位な人材をどう発掘するかという面については、大変大きな課題だと思っております。そのことを実現するために大事なことは、まず相互の交流をしっかりとやっていくことではないかと思っておりますので、そんなあたりから取り組んでいくことが大事だと思っております。

宮口氏

「人づくり」という話ですが、子ども達をちゃんと育てるという「人づくり」も大事ですが、皆さん大人の方達が、これまでの時代とは違うんだということを勉強して、今度はどうやろう、自分をつくっていくという「人づくり」もあるということも是非、ご承知いただきたいと思います。

司 会

時間も過ぎていきますので、ご質問はもうひと方をお願いしたいと思います。

質問者

小杉町から来まして、今度「射水市」になる住民のマエカワという者であります。

資料の「将来のイメージ図」の中で「国土連携軸」、「広域連携軸」とありますが、是非、「地域連携軸」ということも位置付けていただければと思います。「環日本海」と言う場合、射水、新湊と一緒にあって豪華客船が寄り添うとか、立山という富山県が一番皆さんが誇りにする開発についても、大山町と立山町が一体となってやる必要がありますので、大きな国土軸も必要かもしれませんが、隣の市町村とも連携するということも非常に大事だと思いましたので、発言させていただきました。そうすると私のまちは端っこのまちではない、もっと広がりのあるまちになる。細入村長もおっしゃいましたが、高山との交流があつて、それは富山市の端っこではないという、ものすごい広がりを持てると思いますので、是非、こういう位置付けの中に「地域連携軸」をつくっていただきたいと思います。

司 会

これに関しましては、宮口先生にお願いしたいと思います。

宮口氏

お隣との連携は、あつてしかるべきでありまして、それは当然の前提でありまして、ここでは強調していないと思っていただければありがたいと思います。

当然ながら、「海辺環境保全・活性化軸」や「田園環境保全・活性化軸」というのは、隣につながっているわけですし、国道や色々なルートを通じて隣との付き合いがあるわけです。恐らく、これからは富山県に大きな自治体がいくつか出てきましたら、これまでの細かい市町村が一同に介して何とか協議会とか、あまり中身の無いのをやっていたのに対して、実質的に射水市と富山市ではこういうことを考えようというような働きかけが当然行われてしかるべきだと思います。大変、良いご指摘だったと思います。

司 会

以上をもちまして、住民説明会を閉会させていただきたいと思います。

それでは、閉会にあたりまして、合併協議会副会長で会長職務代理者を務められ、新市発足後は、市長職務執行者に就くことが内定されております、中斉忠雄大沢野町長がご挨拶を申し上げます。

■閉会あいさつ

富山地域合併協議会副会長・会長職務代理者 中斉忠雄（大沢野町長）

本日は、多くの皆さんにご参集いただき、盛大に開催することができ、そして、無事終了することができました。心から厚く御礼申し上げます。

宮口先生には、新市に向けての様々な問題につきまして、わかりやすくご説明いただきました。感謝申し上げます。また、コーディネーターとして7市町村が抱えるさまざまな問題につきましても、細かく分析いただきました。心から御礼申し上げる次第であります。

新市誕生まで1ヵ月余りとなり、宮口先生にはより一層のご指導を心からお願い申し上げます。

当合併協議会といたしましては、新市への移行がスムーズにできるように、7市町村の連携を深めながら、心をつ一つにして、諸準備に万全を期してまいりたいと思っております。

本日お集まりいただいた皆様には、富山地域7市町村のこれまで以上の発展と魅力あるまちづくりに対する取り組みについて深いご理解をいただくと同時に、今後とも暖かいご支援とご協力を心からお願いいたしまして、閉会の挨拶といたします。

司 会

以上をもちまして、本日の合併準備説明会を閉会させていただきます。長時間に亘りありがとうございました。